

## 会長就任のご挨拶

このたび退任されました菱川明前会長の後任として、一般社団法人日本陸用内燃機関協会会長に就任いたしましたヤンマー株式会社の荻田でございます。

1948年(昭和23年)に当協会が設立されてから、今年で65周年の節目の年を迎えましたが、歴史ある協会の、第23代目の会長として就任するにあたり、その責任の大きさを改めて痛感いたしております。

日本の陸用内燃機関工業の発展と社会への貢献を、グローバルな視点から実現できるよう、会員企業の皆様のご助言、ご協力を頂きながら力を尽くす所存でございますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



(一社) 日本陸用内燃機関協会  
会長 荻田 広

昨今の、日本の陸用内燃機関、すなわち産業用エンジン業界は、チャレンジングな時代を迎えております。

国内にあっては、大震災をきっかけに、信頼性の高い、安全なエネルギー・動力源として、エンジンは非常に重要だと再認識されました。常用・非常用電源のみならず、GHP（ガスエンジンヒートポンプ）として、また、安全・安心な国民生活の基盤を担う、農業機械、建設機械等の動力源として、エンジンに対する期待が高まっています。

一方、海外展開においても、競争力強化の狙いと海外の旺盛な需要を積極的に取り込む観点から、ガソリンエンジンが先行する形で、海外での産業用エンジンの生産が急速に増えております。ディーゼルエンジンでもその方向性が見て取れます。

これらの展開ができるのは、日本の産業用エンジン業界に高い技術開発力、環境対応力、生産技術・製造能力、マーケティング力があるからです。

例えば、「環境」への対応に関して言えば、ノンロードエンジンについては、米国のEPA Tier4、欧州のEC StageIVの排出ガス規制に連動する形で、日本においても、ディーゼル特殊自動車等の規制が、2014年、2015年規制として開始されます。また、陸内協が開始することを決定した、小形汎用火花点火エンジン3次排出ガス自主規制も米国EPAのPhase3に準拠して実施するものです。これらは国際基準調和の考え方に基づく「グローバル化対応」そのものがあります。

我々は、環境対応能力のみならず、あらゆる能力を、世界水準を超えるレベル

まで、磨き上げ、引き上げて、世界の市場での有力なプレイヤーであり続けなければなりません。

私は、陸内協のこれまでの活動と成果を踏まえて、引き続き「環境への対応」、「グローバル化への対応」をキーワードに掲げて、業界の発展に寄与する活動を充実させたいと考えております。

私はこのチャレンジングな時代に対して、産業用エンジン業界の皆様とともに立ち向かい、業界の発展と社会への貢献を実現したいと思います。

皆様方の暖かいご理解とご支援、ご協力を心からお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。